

装飾付須恵器の器種と分布について

柴垣 勇夫

はじめに

古墳時代須恵器のうち、最も造形豊かに作り出されたものに、いわゆる装飾付須恵器がある。1982年の愛知県陶磁資料館特別展『須恵器展』図録において、その形態の各種と、主要な出土地を分布図として示した（巻末掲載文献「以下文献という」12, P59）が、その具体的な地名表と、その後検討した器種の分類を記し、若干の推論を加えようとするのが、この小稿の主題である。

1. 装飾付須恵器の器種

(1) 装飾付須恵器として扱う範囲

装飾付須恵器の語については、すでに1927年、後藤守一氏が『日本考古学』（文献17）において、須恵器の器種説明の中で使用しているが、その後、特種様式の須恵器として「異形須恵器」の語を用い、その一群に「装飾付須恵器」を掲げ、「大形の脚付埴の肩のところに、人馬及び其他の動物を象した装飾を附加するか、又は「子持」といはれる様に、更に数個の小形の埴を附飾した類をいふ」と説明している。

近年では、田辺昭三氏^(注1)が、「脚付壺の肩などに人物や動物をかたどった小像群を飾るものがある。この種の須恵器を装飾付須恵器とよんでいる。また脚付壺に数個の小型壺をつけたもの、器台の上に数個の蓋杯をのせたものは、子持須恵器の名でよぶ。」（文献1）と述べ、装飾付須恵器を、小像群を付飾するものに対応する語としている。また、同氏はこれらを「特殊器形の須恵器」として一括し、さらに複数の壺や甕を連結させたものや、鳥形瓶・皮袋形瓶などの象形的な須恵器、角杯、環状瓶、特殊扁壺、二重甕、鈴台付碗などの一群もこれに含めている。そして、これらは葬祭用須恵器であると性格づけている。一方、榎崎彰一氏は子持壺、子持高杯、小像加飾の須恵器（文献13）を、また、岸本雅敏氏は、田辺氏のいう子持須恵器、複数の壺や杯類を連結させたものを含めて装飾付須恵器として扱っている（文献54）。

この小文では、榎崎氏、岸本氏のように広義にとらえ、さらに通常、特殊須恵器として扱われることの多い鳥形の装飾を蓋の上にのせる鳥鈕蓋付須恵器も、狭義の装飾付須恵器に付随して作られている例があり、その系譜をひく（文献13）と考えられるので、本文の中に取り上げる。なお、類似の子持蓋付壺類については、子持壺の系譜の中におかれるものであるが、東海地方では、長期にわたり、かなりの地点から出土していて、地名表が煩雑になるので、京都・佐賀の古式の例を除き割愛した。

(2) 装飾付須恵器に付される個別名称

従来、研究者によって同一個体についてもさまざまな呼称が付されているが、器形とそれに付飾された器物の複雑さから呼称の統一的な見解はないといっても過言ではない。例えば、台脚をもつ広口壺の肩に、小壺と人物・動物の装飾を配したものの呼称を例にとってみよう。一台付装飾壺、脚付き装飾壺、装飾付台付壺、装飾付脚付子持壺、装飾脚付子持壺—の如くさまざまである。さらに、本文で扱おうとする、器台上に蓋杯をのせた須恵器等については、さらに複雑である。—子持器台、脚付き七連杯、装飾付器台、子持高杯—と器形の表現にすら異なったものとなっている。これについて、岸本雅敏氏は、装飾付須恵器の概念と用語の整理を行い、その器種分類については、①装飾付器台、②装飾壺、③装飾付台付壺、④装飾付高杯=子持高杯の用語をあ

てた。さらにこれらに附加された装飾的モチーフを三分類し、a類—小形埴・甕・甕形埴・あるいは杯を附加したもの、b類—人物像・動物像などの小像群を配したものの、c類—a類とb類のモチーフを組み合わせたものとし、記号分類を試みている。

本文では、これらを参考にし、さらに用語の不統一をさけるため、別表の地名表という器種呼称を用いることとした。すなわちa類=子持、b類=装飾、c類=子持装飾の語を使用し、①は装飾付器台、②は装飾壺ないし子持壺とする。③については、これまでの呼称例の最も多用されているものを採って台付子持壺ないし台付子持装飾壺に、④は、後述する子持高杯の成立経過から子持器台と呼称し、特に器台の鉢(杯)部が袋状となり底抜けとなったものについては、台付四連杯などの呼称を用いることとした。

2. 装飾付須恵器の分類

さて、装飾付須恵器の大半は、台付(子持)装飾壺および子持器台であるが、それらは、どのように分類できるか、またそのことの意味について考えてみる。

台付装飾壺については、すでに岸本雅敏氏によってその成立過程との関わりで分類されているので、ここではこれに、一部器種を加えて分類してみる。次に子持器台については、須恵器の系譜を探る中で提唱された原口正三氏の器台そのものの分類(文献48)をもとに、その形状の特徴に付飾された器物の違いを加えて分類することとした。

なお、台脚をもたない子持壺類については、5世紀代に集中し器台とセットになることによって葬送儀器となること、出土例が少数であることからこの対象からはずした。

(1) 台付(子持)装飾壺類の分類

すでに指摘されているように(文献54)、(子持)装飾壺と器台の合体にその特徴をもとめることができるもので、I~IV類に分類される。

I 類

器台と子持壺あるいは装飾壺が一体化し、かつ、器台の形状(鉢部)を残すもの。

I' 類

I 類の形態に別の要素—例えば壺胴部にII類という突帯貼付—をもつもの。

II 類

台付壺の壺胴部中ほどに鐮状の突帯をめぐらし、小壺ないし装飾をもつもの。

III 類

台付壺の壺胴部に突帯をもたず、小像群・小壺等を付けたもの。

IV 類

台付長頸瓶に小壺を付したものの。

(IV'—長頸瓶胴部に透しをもち、容器の機能をなくしたもの)

これに付加されたa, b, cの装飾モチーフを加えると、I a (図1-1), I c; I' a, I' c (図1-2); II a (図1-4), II b (図1-3), II c; III a (図1-5), III b (図1-6, 10, 11), III c (図1-7, 8); IV a (図1-12), IV' cの12種類によってこれまで出土の台付(子持)装飾壺の類はすべて包含される。

これを便宜的に時期別の表にしてみると、表1の如く、ほぼ6世紀代に集中して各器種が存在したことが判る。

時期		500	600
子持壺		—	
I (I)	a	-	-
	c		-
II	a	—————	
	b	—————	
	c	—————	
III	a	—————	
	b	—————	
	c	—————	
IV	a, c	—	

表1 台付(子持)装飾壺の時期別変化

時期		500	600
A	a	—————	
	Aa		—————
	b	—————	
	c	-	
B	a		
	b	—————	
	c		
C	a	—————	
	b	-	
	c		

表2 子持器台類の時期別変化

(1時期の出土数)
 — 1~2ヶ
 — 3~5ヶ
 — 6ヶ以上

台付(子持)装飾壺の成立については、新羅の装飾土器に原型を認めつつも、器形的には、装飾壺と器台との統一・一体化と共に、器台口縁部の衰退化ないし形骸化という現象(I・II類)および当初から器台鉢部を排除した装飾壺と器台の一体化という現象(III類)の中に見出される。そして、同時にそれらは、「首長墓固有の葬送儀礼にいち早く採用された器台と壺のセット」が「家族墓的送葬イデオロギ-と対立する首長墓の儀礼を肉づける一要素として機能したもの」(文献54)との見方もあるように、葬送祭祀の儀器(在地有力豪族層の)を最も端的に表現しているものといえることができる。なお、これらは5世紀末ないし6世紀初頭にはほぼ同時に出現し、6世紀後半まで盛行した。このことは、次の子持器台の出土例についても敷衍できるであろう。

(2) 装飾付器台・子持器台の分類

古墳時代後期の葬送儀器として、もう一方の装飾付須恵器に子持器台類がある。奈良県平群町鳥土塚古墳(6世紀後半~6世紀末)や佐賀県東脊振村松葉2号墳(6世紀後半)にみる横穴式石室前庭部での出土例は、葬送儀器の役割(祭具)を端的に物語り、名古屋市松ヶ洞8号墳や同・池下古墳例(5世紀末~6C初)も墳丘裾や前方後円墳くびれ部の円筒埴輪に囲まれた区画内での出土であり、同様な形態は名古屋市城山1号墳(7世紀前半)のように周濠の一部に出土した例にもみることが出来る。墓前祭ないし墳丘上での葬送儀礼が存在していたことの推定を可能にする出土状況である。

ここで、装飾付ないし子持器台の分類をこころみてみよう。

器形別分類については、その原形とみられる朝鮮各地出土のものとの比較の中で器台の類型別を行っている原口正三氏の分類^(注2)という、A(高杯型器台)、B(筒型器台)、C(受け台部をもたない筒状の器台)の3種を装飾付器台、子持器台の類に応用する。

A類

通常の鉢(杯)部をもつ高杯形の器台で、杯部に小像群ないし蓋杯等を乗せる類。台脚部には、時期的に長脚、短脚の変化がみられるが一括してA類として扱う。

(A'類—なお、鉢部が深く、台脚が伏鉢状を呈するものは、通常の高杯形器台とやや様相を異にし、分布も大阪・奈良に集中するのでこれをA'類として扱う。)

B類

上部に壺形を呈するものがみられることから、祖形が壺と台脚の結合したものから発すると考

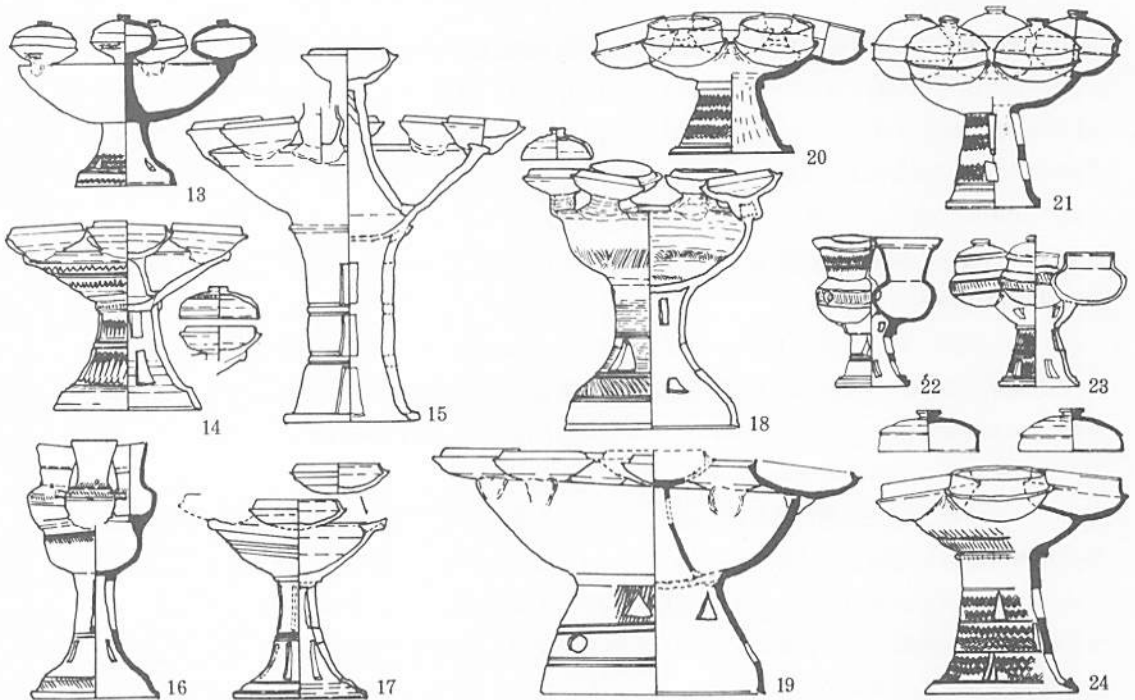
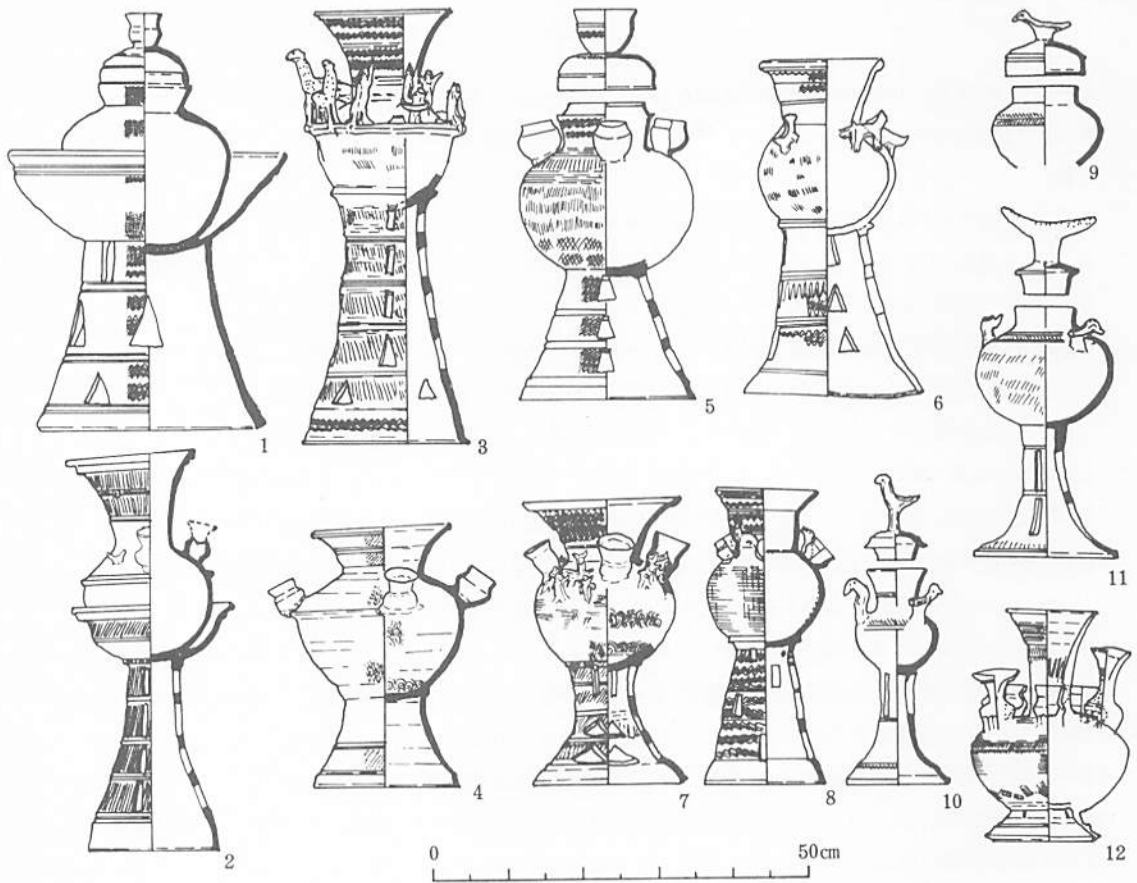


図1 裝飾付須臾器各種 (1-京都 11; 2-大阪 15; 3-大阪 1; 4-兵庫 3; 5-愛知 6; 6-福井 4; 7-兵庫 2; 8-愛媛 3; 9-愛知 7; 10-愛知 8; 11-愛知 10; 12-石川 3; 13-福岡 2; 14-奈良 9; 15-佐賀 2; 16-愛知 12; 17-愛知 18; 18-大阪 9; 19-奈良 2; 20-愛知 27; 21-愛知 26; 22-岐阜 4; 23-岐阜 3; 24-愛知 14;)

えられるもので、柱状部の上方に鉢部があり、長い柱状（筒形）の下部は段をなして、断面台形状ないし伏腕状を呈するもので口縁ないし台脚面に小像群を付飾する。いわゆる筒形器台。

C類

前述の器台Cにいう受け台部をもたない単なる台状の器台と、器台Bの鉢部と直下の壺胴部とみられる袋部が接合ないし部分的な省略の中に生まれた形状かと推定されるもので、数個の蓋杯や壺を器台鉢部の胴部が袋状になって受けているもの。直線的なやや細身の台脚部ないし裾広がりの太い長脚状の台脚部のものがあるが、一括してC類とする。特に四連杯、七連杯、三連杯、三連壺、四連壺などの子持形が愛知・岐阜を中心に分布する。

これらに前節に示した装飾モチーフa, b, cを加える（a類には、小形品のみならず、単一個体ともみられる壺・甕等を含む）と、Aa（図1-13. 14. 15. 16. 17）、Ab, Ac; A'a（図1-18. 19）; Bb（B類は別個体の壺とセットとなる5世紀代のものがほとんどで装飾は筒台脚部に付されるため、a, c類の発見例は、現在まで皆無である。）; Ca（図1-20~24）、Cbの類に大別される。

これらの時期別変化を便宜的に表現すれば表2のようになる。

これらのうち、5世紀後半におかれるBbおよびCb, 6世紀前半におかれるAb, Acはすべて器台の口縁部に小さく装飾ないし小壺を付加したもので、機能としては器台そのものである。したがって、これに壺を付加しセットとすることによって葬送儀礼用の容器となるものであろう。個体単独で儀器となる容器はむしろ5世紀末に編年される東海地方出土の台付七連杯、台付三連壺（名古屋市・羽根古墳）が先駆的なものと考えられる。このCa類と、典型的な子持器台であるAa類との間の直接的なつながりはみあたらないが、同一の東海地方の中に、6世紀初頭にはAa類の初現例とみられ、かつ典型的な子持器台である岐阜・陽徳寺古墳出土例が存在することはCa類の誕生とAa類の登場に東海地方の窯業技術集団の関与を想像させる。

なお、6世紀代全般にわたって製作されたAa類には、器形変化、特に台脚部の変化が顕著で、通有の高杯脚部ないし台付壺の脚部変化に対応して、鉢部との接続部を細くしていき、7世紀前半期をもって衰退していく傾向を示すようである。

(3) 子持器台の成立について

以上、台付（子持）装飾壺および子持器台について分類してきたが、これらの系譜に関しては、次のような説がある。

一つは、朝鮮、特に新羅系土器から出発し伽耶地方の土器を経てその影響下に出現、発展したとする意見である。すなわち、6世紀前葉以降の装飾付須恵器の著しい発達と、土器の形態および組み合わせの変化は、「土器とそれにもなう葬礼に関して、半島から新たな風習の移入があった」（文献61）とするものである。

もう一つの意見は、装飾付須恵器の源流が朝鮮の土器にあることを周知の事実と認めながらも、特に台付（子持）装飾壺（特にI・II類）については、国内において成立、発展したとするものである（文献54）。もちろん、須恵器の初現に関しては、朝鮮からの窯業技術集団の渡来があり、その系譜には、伽耶・百済・新羅、なかでも伽耶（任耶）の技術の直接的影響があったことは、多くの研究者によって認められていることである。また、その後の発展の中でも、引続き百済、新羅の影響を逐次受けているのであるが、一方、台付装飾壺の形態的变化を考え、かつ古墳における出土状況等を加味した結果、台付装飾壺は、発生的には首長墓において意味をもち、既存の

壺・器台セットの一体化から成立したとする研究成果もみおとせない。

朝鮮半島における新羅前・中期（4世紀後半～6世紀前半）や伽耶後期（4世紀～6世紀）の装飾土器（異形土器^(注3)）は、その初期（5世紀前半に出現）においては、土器そのものが単独で容器の役割をもつ装飾土器であり、騎馬人物形、車形、鴨形などの装飾品がある。やがて5世紀中葉以降、特に新羅において土偶（人物、動物）貼り付けのいわゆる装飾付土器が発達する。これらは、生産・豊饒あるいは死者の生命復活を祈る意味をこめて副葬用あるいは祭器として製作されたものであるといい、その装飾モチーフは死者に対する現世環境の再現に目的をもたせたものと想像されている。^(注4)

日本の装飾付須恵器は、こうした朝鮮半島の葬送儀器の影響を受けて登場するものと思われるが、しかし国内出土例に伽耶・新羅にみられる形態に類似するものはほとんどない。最も初源的な装飾付器台（Bb）の器形自体、伽耶地方の影響を受けながらもすでに日本化されており、これにセットとなるであろう子持壺（甕）についても、現在のところ類似の器形を朝鮮半島に見出すことができない。^(注5)

今、子持器台（Aa, Ca）についてみると、燈蓋として使用したと推定されている子持器台が慶州金鈴塚や、慶尚道出土例にあるが、杯底部から器台縁部が中空のチューブ状帯でつながり、器台（母杯）の中央に孔があげられ通風孔の役割をもたせたとみられ、明らかに燭台を目的とした装飾土器である。また、高杯を平板な器台内へ入れた例が慶州皇南大塚などから出土している^(注7)も、これが一体化した装飾土器は朝鮮半島にみられない。

一方、国内では、石川県・和田山23号墳において、円墳周溝内の一隅に、墓前祭的な祭具として有蓋高杯45組に筒形器台、台付壺等が一括して整然と配列された5世紀末の葬送儀礼の場そのものを示す出土例^(注8)があったことや、同期ないし6世紀初めに編年される名古屋市池下古墳における前方後円墳くびれ部にみられた有蓋高杯9組以上と共に台付七連杯（子持器台）を祭具として使用していたこと（文献25）は、多数の有蓋高杯を要する首長層の葬送儀礼において、葬送用祭祀用具としての必要性から数個の有蓋高杯を器台にのせた形を一個体に集約し、その用途を目立たせるものへ変化したことを示すかのようである。いわば在地首長を含めた広汎な首長墓の葬送儀礼の風習（半島からの風習移入も加わったものであろうが）の中で、須恵器生産技術の定着とあいまって、国内で誕生した祭具が子持器台であり、あるいは台付装飾壺であると推定されるのである。特に東海地方出土の台付三連壺や七連杯などの子持器台は、新羅出土の燈蓋における杯底部孔あきの器形との類似をみせるけれども、基本的には、国内器種の器台（器台B上部の鉢部ないし袋部と複合した形での截頭円錐形の器台C）と有蓋壺、蓋杯（脚部を消去した有蓋高杯）の結合という形で5世紀末に初めて国内に新たな祭具として創造されたものと考えたい。それはやがて、器台Aタイプの形態を生み、全国的に子持器台器種の流行を生み出すのであろう。

3. 装飾付須恵器の分布

前章で子持壺を除いた装飾付須恵器として台付（子持）装飾壺および装飾付器台、子持器台の分類をみてきたが、次にこれらの出土例の分布状況を見てみよう。なお、数例古窯跡発見の装飾付陶片があるが、これらは今回の分布の中からはずしている。また、かつて、台付装飾壺類Ⅱ類を南塚・長船タイプ、Ⅲ類を西宮山タイプとし、子持器台Aa類を一須賀タイプ、同じくCa類を池下・二又タイプと呼称し、その分布図を『須恵器展』展示図録（愛知県陶磁資料館1982）

P59に掲載したが、この呼称は、各器種の代表的な出土例であり、典型的なタイプとして存続させてよい呼称と思う。但し、一須賀タイプは、今回の検討によってA'a類とすべきで、Aaとしては、改めて、陽徳寺タイプと呼んでみたい。

以下、前述の分類にそって、時期別に再度分布図を作成したので、これをもとに、分布の特徴を探ってみる。器種を細分したのでやや煩雑であるが、地域的な分布の特色が一応把握できるようである。

(1) 5世紀末から6世紀後半の分布

装飾付須恵器の初現期から、最も盛行する6世紀中葉～後半の時期を中心とした分布は図2にみる様相を示す。

台付子持壺Ⅰ類の出土例は、京都・青山例を除き皆無である。広口壺と器台の一体化した例（2個体の融着したものであるが）が福岡・番塚古墳（文献56頁170）、熊本・塚原丸山3号墳（文献84および文献43頁103）にあって、九州ないし近畿にこの種装飾付須恵器の発見される可能性をもっている。

大阪・南塚古墳出土例に代表される台付（子持）装飾壺Ⅱ類は、特にⅡb、Ⅱcの大半が和歌山・岡山に集中していて、地域性を明瞭に示している。6世紀代の紀氏、吉備氏の政治的動向を象徴するかの如くである。

最も多い台付子持壺Ⅲa類は、全国的に分布する様子が認められるが、Ⅲb、Ⅲc（西宮山古墳例に代表される）に限ってみれば、これらの出土も西日本に集中することが判る。

子持器台も東海以西に多いが、特にCa類（池下・二又古墳例に代表される）は、岐阜・愛知に限って出土しているものである。

(2) 6世紀末から7世紀代の分布

装飾付須恵器が衰退するこの期の分布状況は、図8の如くである。

台付子持壺Ⅱ・Ⅲ類および子持器台A・C類は形態的に退化現象をみせる。これまでの装飾付須恵器の中心的存在であった山陽・近畿・愛知や、この期に形式化した子持壺が盛行する山陰地方等に装飾付須恵器を使用した葬送儀礼が、なお存続したことを示しているようである。器種の変化も著しく、子持器台Aa類の台脚部の細身化の一方、太く伏鉢状を呈するA'a類（一須賀タイプ）も一時期登場する。東海地方ではこの時期に鳥鈕蓋付台付壺が多く製作され、加飾の単純化の一方、地域的な葬送風習（思想）の変化も認められる。さらに、鳥根・岡山・石川に出土例のある台付長頸瓶の肩に小壺を配したもの（Na類）などは新器種への装飾行為である。また、岸本氏によってⅠ～Ⅲ類に形態変化の分類がなされた山陰地方の台付子持壺（文献54）のうち、山陰Ⅲ・Ⅳ類（Ⅳ類は筆者が加えた台脚部が消滅ないし痕跡程度となったもの）は、出雲地方を中心に分布し、葬送用祭器の形骸化をみせる。

(3) 出土地と製作他

以上の装飾付須恵器出土地は、大部分が古墳であり、出土地不明分を除くと、群馬県・原之城遺跡のみが豪族居館跡内の祭祀遺構からの出土である。他に古窯跡出土品が数例知られる。それらは岡山・邑久窯、兵庫・御津町礎岩窯、同・相生市西後明窯のⅡ類ないしⅢ類の台付装飾壺片や、大阪・陶邑TK18号窯の装飾付器台Bb類片、岐阜・丸山窯と愛知・東山15号窯の鳥鈕蓋と考えられる破片などであるが、大半が近くに装飾付須恵器を出土した古墳の存在する地域であ



る。このように装飾付須恵器の大部分は、出土地をめぐる一定範囲内にその製作地が求められるが、これらの窯業技術集団と古墳被葬者とのかかわりや、製品の供給がどの程度の範囲に広がっていたかの推定はむづかしい。

しかし、装飾付須恵器がかなり限定された地域での出土である以上、同一器種がかけ離れた地域で出土する場合は、移入等の背景を考えざるを得ない。そういう点で、島根・めんぐろ古墳例（表・島根6）、静岡・新林1号墳例（表・静岡1）、群馬・前二子古墳例（表・群馬1）、同じく上野国出土例（表・群馬4）、等は、岡山・兵庫を含めた近畿圏からの移入を想定すべきものであろう。同じく7世紀代の高知・舟岩2号墳出土（表・高知1）の子持器台についても同様な背景を考えてよいように思われる。もちろん移入の証明には自然科学的分析が必要であり、軽率に結びつけられないが、小文で扱わなかった特殊須恵器にみられる地域性（例えば環状提瓶の広島県下での集中出土、鳥形瓶の岡山・鳥取・広島に限る分布）や鳥鈕蓋の東海地方での分布が窯業技術集団の地域的特色を示すのと同様、装飾付須恵器の地域的製作の特徴がこの分布図に表われているとみるのもあながちまちがってはいないであろう。

4. む す び

以上、大半は岸本論文に依拠しながら、主として古墳出土の装飾付須恵器の器種分類とその分布状況をながめてきた。これらの器種の源流は、朝鮮半島の新羅土器等に求めることができるが、器種の成立そのものは、国内において壺・器台の一体化あるいは杯・壺類数個と器台の一体化という葬送用祭具の進展の中から生まれたものと想定されること、器形の分類に基づきその分布をながめると、装飾付須恵器にも地域的特色が認められること、さらには近畿地方を中心とした地域からの移入品と推定されるものがあることを述べてきた。装飾付須恵器が在地首長層の葬送用儀器としての性格をより強くもったものであることは、出土古墳の検討によって裏付けられつつあるが、被葬者とそれを製作した窯業技術集団との関係、さらに移入例の意味する背景ひいては、古墳時代後期、特に6世紀代の磐井の反乱に象徴される政治的動向との関連など、検討すべき主要な事柄は大半、将来へ残されてしまった。今後の検討課題としていきたい。

なお、図1実測図は、3、7、18を当館須恵器展において実測、他は掲載文献、各報告書より引用し、同一縮尺に統一した。

注1. 後藤守一「須恵器」『陶器講座』1 雄山閣 1935

注2. 原口正三「須恵器の源流をたずねて」『古代史発掘』6 講談社 1975

注3. 金元龍「古新羅の土器と土偶」 金廷鶴「加耶土器」『世界陶磁全集』17 韓国古代 小学館 1979

注4. 注3 金元龍 文献

注5. 注2文献；ただし著者は台状部の低小化を任那・新羅と同傾向と述べている。

注6. 金元龍ほか編『世界陶磁全集』17 韓国古代 小学館 1979 図版34.148

注7. 注6文献 図版33.147

注8. 「須恵器」展示図録 石川県立郷土資料館 1981

別表

装飾付須恵器出土地名表

県名	出土地名		装飾付須恵器々種	高さ	時期	型式	所蔵者	掲載文献
群馬	1	前橋市西大室町 前二子古墳	装飾付筒形器台	58.0 ^{cm}	6 C初	B b	前橋市教委	1.2
	2	伊勢崎市豊城町 原之城遺跡	子持器台		6 C末~7 C初	A a	伊勢崎市教委	3
	3	" "	装飾付器台		"		"	3
	4	不詳	台付装飾壺	47	6 C中葉	III b		38
長野	1	茅野市宮川高部 熊野堂	子持器台				東博	4
石川	1	七尾市矢田町 高木森古墳	子持壺片		5 C末~6 C初	III a	七尾市教委	5
	2	" 温井15号墳	台付装飾壺		6 C初			
	3	珠洲市宝立町 谷崎横穴	子持長頸瓶	30.0	7 C中葉	IV a	個人	1.6.12.56
	4	" 大島1号墳	子持壺	30.6?			不明	6
	5	河北郡高松町 若緑						7
福井	1	坂井郡金津町 神奈備山古墳	子持壺		6 C			8
	2	福井市西二ツ屋町 (旧鷹巣村)	子持器台	26.3			東博	4
	3	鯖江市吉江 天神山・畠中古墳	子持壺片		6 C初	III a	鯖江市教委	9
	4	三方郡美浜町 獅子塚古墳	台付装飾壺	44.5	"	III b	東博	1.2.4.10.14
	5	" "	台付子持壺	49.6	"	III a	"	10
	6	" "	台付子持壺(有蓋形)	(現)33.2	"	III a	"	10
	7	敦賀市松原字小山	台付子持壺	29.5			"	4
	8	查町 丸山古墳	子持杯					7
静岡	1	磐田郡豊岡村 新林1号墳	台付子持壺	37.5	6 C中葉	III a	静岡大学	1
	2	磐田市 神明宮内古墳	装飾付器台		5 C末	(C b)?	磐田市郷土館	1
	3	浜浜市豊町 蛭子森古墳	鳥鈕蓋 3	10.7	7 C初		浜松市博物館	1.2.11.12
愛知	1	宝飯郡一宮町 炭焼平14号墳	鳥鈕蓋付台付壺	(通)33.0	7 C中葉		名古屋大学	1.2.12.13.14
	2	豊橋市小野田町 寺西1号墳	"	" 37.4	6 C中~後半		豊橋市美博	12.15
	3	" 嵩山町 万福寺古墳	"	" 37.5	7 C前半		"	12.15
	4	蒲郡市三谷町 諏訪山古墳	鳥鈕蓋	9.0	7 C中葉		"	16
	5	" 大塚町 古墳	鳥鈕蓋付台付子持壺	(現)42.5	6 C末~7 C初	III a	東博	4.17.18
	6	額田郡幸田町 鏡塚古墳	台付子持壺有蓋壺	(通)47.1	6 C初	III a	坂崎中	18
	7	岡崎市岩津町 岩津1号墳	鳥鈕蓋	8.8	6 C末		岡崎市郷土館	19
	8	" "	鳥鈕蓋付台付装飾壺	(通)38.0	7 C前半	III b	"	1.2.12.19
	9	" "	子持蓋付台付装飾壺	" 44.0	"	III b	"	1.12.19
	10	" "	象形鈕蓋付台付装飾壺	" 41.0	"	III b	"	19
	11	" "	台付装飾壺	27.3	"	III b	"	19
	12	" "	子持器台	33.6	"	A a	"	1.19
	13	" "	(台付四連壺)	31.5	"	A a	"	19
	14	豊田市河合町 豊田大塚古墳	子持蓋付台付四連壺	(通)48.0	6 C前半	C a	豊田市郷土資料館	1.2.14.18
	15	" "	台付四連杯	" 33.3	"	C a	"	1.2.18
	16	" "	"	" 34.0	"	C a	"	18
	17	" "	"	" 33.9	"	C a	"	18
	18	名古屋市中種区 城山1号墳	子持器台	27.0	6 C末~7 C初	A a	南山大学	20
	19	" 熱田区 断天山古墳	子持器台片				不明	21
	20	" " 白鳥古墳	装飾付筒形器台	48	6 C初	B b	埋戻し	22
	21	" " "	台付子持壺	43	"	III a	"	"
	22	" " "	台付三連壺	33	"	C a	"	"
	23	" " "	"		"	C a	"	"
	24	" " "	鳥鈕蓋?		"		"	"
	25	" 守山区 羽根古墳	台付三連壺	(現)37.0	5 C末	C a	個人	23.24

県名	出土地名	装飾付須恵器々種	高さ	時期	型式	所蔵者	掲載文献
愛知	26 名古屋市守山区 池下古墳	台付七連杯 (内1ヶは壺)	26.8 ^{cm}	5C末~6C初	C a	名古屋市博	1. 2. 12. 24 25
	27 " 松ヶ洞8号墳	台付七連杯片	(現)21.0	5C末	C a	"	23. 24
	28 名古屋市瑞穂区 師長古墳	鳥鈕蓋付台付壺	(通)30	7C前半		個人	2. 15
	29 春日井市勝川 南東山古墳	鳥鈕蓋 3	(現) 3.5~5.9	6C末~7C初		春日井市教委	26
	30 " 勝川古墳群	鳥鈕蓋付台付壺	40.0	"		逸翁美術館	12
	31 瀬戸市山口 塚原古墳	"	29.0	7C前半~中葉		瀬戸市歴史資料館	15
	32 犬山市羽黒 白山神社古墳	鳥鈕蓋付高杯	(通)17.0	6C末~7C初		白山神社	27
	33 不詳	台付三連壺	31.1	6C初	C a	長母寺	1. 2. 28
岐阜	1 関市千疋 陽徳寺古墳	子持器台	39.0	6C初	A a	陽徳寺	1. 2. 12. 24. 28
	2 岐阜市下城田寺 鎌磨5号墳	台付四連杯	23.2	6C後半	C a	東博	4. 29
	3 養老郡上石津町 二又1号墳	台付四連壺	19.4	6C前半	C a	名古屋大学	1. 2. 12. 13. 14
	4 " "	台付三連壺	20.7	"	C a	"	1. 2. 12. 14. 28
	5 海津郡南濃町 古墳	鳥形	7.5	7C		城山小学校	30
三重	1 亀山市井田川町 茶白山古墳	台付装飾壺	52.2	6C前半	Ⅱ b	三重県教委	15. 31
	2 阿山郡大山田村 鳴塚山古墳	台付子持壺(臚)片	(現)12.0	6C中葉~後半	Ⅱ a	個人	32
	3 多気郡明和町 神前山1号墳	子持臚	(現)12.0	5C後半		明和町教委	33
	4 鳥羽市答志島	鳥鈕蓋付台付壺	28.0	7C前半		東博	2. 34
滋賀	1 蒲生郡竜王町(旧鏡山村)	台付子持装飾壺片	(現)11.2	7C前半	Ⅱ c?	京都大学	35
	2 大津市 大通寺古墳	台付子持壺(有蓋形)	35.0	6C末~7C初	Ⅱ a	琵琶湖文化館	1
京都	1 竹野郡弥栄町 太田2号墳	台付子持壺片 (有蓋形)	(現)22.5	6C前半	Ⅱ a	丹後郷土資料館	36. 37
	2 与謝郡 玉峠古墳	台付装飾壺		6C前半	Ⅱ b		37
	3 丹波地方の一古墳	台付子持蓋壺	46.	6C前半~中葉	Ⅱ a		38
	4 " "	"	44	"	Ⅱ a		"
	5 熊野郡久美浜町 湯舟坂2号墳	台付子持壺	26.1	7C前半	Ⅱ a	久美浜町教委	39
	6 福知山市牧 牧古墳	台付子持装飾壺	22.8	7C前半	Ⅱ c	東博	34. 40
	7 京都市右京区 大覚寺2号墳	台付子持壺		6C後半	Ⅱ a	京都府教委	41
	8 " 大覚寺3号墳	"	(推)32.0	"	Ⅱ a	"	"
	9 長岡京市長法寺 マト塚古墳	台付子持装飾壺	(現)33.0	6C前半~中葉	Ⅱ c	京都大学	35
	10 " 海印寺字走田	台付子持壺					34
	11 城陽市 青山2号墳	器台付子持蓋付壺		6C前半	(Ⅱ a)	城陽市教委	42. 43
	12 宇治市 坊主山1号墳	台付子持壺				京都府教委	44
奈良	1 生駒郡平群町 烏土塚古墳	子持器台	35.6	6C中葉~後半	A' a	橿原考古学研	45
	2 " "	"	31.1	"	A' a	"	"
	3 " "	"	29.2	"	A' a	"	"
	4 " "	子持器台片		"	A'	"	"
	5 " 下垣内池古墳	台付子持壺片	(現)17.5	6C中葉~後半	Ⅱ a	"	"
	6 生駒郡三郷町 勢野茶白山古墳	子持器台片				"	46
	7 北葛城郡新庄町 二塚古墳	子持器台		6C後半		"	47
	8 " 山口の古墳	" (脚欠)	(経)34.4	6C中葉	A a	京都大学	35
	9 桜井市浅谷の一古墳	"	20.6	6C中葉~後半	A a	橿原考古学研	48
	10 不詳	台付子持装飾壺	40.	6C中葉	Ⅱ b	個人	1
和歌山	1 和歌山市井辺 八幡山古墳	装飾付器台		6C初	A b	同志社大学	49. 50
	2 " "	台付装飾壺		"	Ⅱ b	"	49
	3 " "	台付装飾耳杯	15.3	"		"	2. 49. 50
	4 " "	子持鉢		"		"	49

県名	出土地名	装飾付須恵器々種	高さ	時期	型式	所蔵者	掲載文献	
和歌山	5 和歌山市井辺 前山6号墳	装飾壺片		6C前半		和歌山市教委	51	
	6 和歌山市岩橋 花山古墳群	台付子持装飾壺	30.9 ^{cm}	〃	Ⅱc	天理参考館	2.12	
	7 〃 〃 岩橋千塚の内	台付装飾壺	54.5	〃	Ⅱb	個人	14	
	8 〃 〃 花山6号墳	装飾壺片	4.0	〃			52	
	9 〃 〃 天王塚古墳	〃 象形品片	5~6.7	〃			〃	
	10 〃 〃 〃	装飾付器台片	8.5	〃	A b		〃	
	11 〃 〃 岩橋千塚の内	台付子持装飾壺	56.0	6C中葉	Ⅱc	個人	50.52	
	12 〃 〃 殿山古墳	台付子持壺(有蓋形)	27.8	6C後半	Ⅱa	〃	1	
	13 〃 〃 日前宮付近	台付子持装飾壺(脚欠)	(現)26.0	6C中葉	Ⅱc	天理参考館	53	
	14 那賀郡岩出町 船戸箱山古墳	台付子持装飾壺	27.5	6C末~7C初	Ⅱc	紀伊風土記の丘	1	
	15 〃 〃 5号石室	子持器台(高杯)	20.5	〃	A a	〃	1.43	
	16 有田市箕島 箕島1号墳	台付子持装飾壺(有蓋形)	37.0	6C後半	Ⅱc	常楽寺	1.14	
	17 有田郡湯浅町 天神社境内	装飾壺				東博	34	
	18 御坊市湯川 有留木古墳	台付子持装飾壺	40.5	6C末~7C初	Ⅱc	紀伊風土記の丘	1.14.43	
	大阪	1 茨木市宿之庄 南塚古墳	台付装飾壺	57.8	6C中葉	Ⅱb	京都大学	2.12.14.28 43.54
		2 〃 〃 〃	台付子持壺	31.0	〃	Ⅱa	〃	13(巻末図)
		3 茨木市福井 海北塚古墳	〃		6C後半	Ⅱa	東博	34.54
		4 〃 〃 安威12号墳	装飾付器台					54
5 東大阪市四条町 山畑22号墳		台付子持装飾壺	46.0	6C中葉	Ⅱc	東大阪市教委	14.43	
6 〃 〃 山畑33号墳		台付子持壺	(現)26.2	6C後半	Ⅱa	〃	55	
7 八尾市高安 高安千塚		装飾付器台		6C前半~中葉	A c		59	
8 南河内郡河南町 一須賀27号墳		台付子持壺	26.0	6C後半	Ⅱa	大阪府教委	56	
9 〃 〃 17号墳		子持器台	36.4	6C末~7C初	A'a	〃	12	
10 〃 〃 一須賀古墳群		〃	54	7C前半	A'a	〃	43 (図60の内)	
11 〃 〃 〃		〃		6C末~7C初	A'a	〃	〃	
12 富田林市平 平1号墳		〃		6C後半		〃	60	
13 和泉市 信太千塚43号墳		台付子持壺		〃		泉大津高	58	
14 〃 〃 信太千塚78号墳		器台付子持壺	51.0	〃	I a	〃	57.58	
15 〃 〃 〃		器台付子持装飾壺	53.5	〃	I c	〃	〃	
16 岸和田市山直字沼谷山馬塚古墳		鹿鈕蓋付装飾壺	32.3	6C中葉	(Ⅱb)	東博	2.12.34	
17 柏原市高井田 高井田横穴		子持器台				〃	34	
18 東大阪市日下町 善根寺古墳		台付子持壺				(地元)	34	
兵庫	1 尼崎市園田 大塚山古墳	台付子持壺片		6C中葉	Ⅱa	京都大学	35	
	2 竜野市日山 西宮山古墳	台付子持装飾壺	37.5	6C中葉	Ⅱc	京博	1.2.12.28. 43.61	
	3 〃 〃 〃	台付子持壺	34.6	〃	Ⅱa	〃	1.2.12.61	
	4 竜野市揖西町 中垣内古墳	器台付子持装飾壺(有蓋形)	46.8	〃	I c	東博	4.14.34	
	5 〃 〃 誉田町 舍利殿山5号墳	台付装飾壺					54.62	
	6 揖保郡新宮町 姥塚古墳	台付子持壺	37.0	6C中葉~後葉	Ⅱa	新宮町教委	54	
	7 揖保郡御津町中島小丸山古墳	台付装飾壺	42.9	6C中葉	Ⅱb	東博	1.14.17. 34.54	
	8 〃 〃 〃	台付子持装飾壺(有蓋形)	38.5	〃	Ⅱc	〃	54.63	
	9 〃 〃 〃	台付装飾壺		〃		〃	〃	
	10 不詳	子持壺(子持6)	19.8	5C後半		名古屋市博	12.28	
鳥取	1 鳥取市 開地谷古墳	台付子持壺	25.0	6C後半	Ⅱa	個人	1	
	2 〃 〃 〃	子持器台	29.	〃	A a	鳥取県博	1	
	3 西伯郡淀江町 中西尾6号墳	〃		〃	A a	不	7.64	

県名	出土地名		装飾付須恵器々種	高さ	時期	型式	所蔵者	掲載文献
鳥取	4	米子市 宗像1号墳	台付子持壺	48.6 ^{cm}	7C前半	Ⅲa	佐々木古代文化研 個人	1 65
	5	不詳	子持器台	35.2	6C後半			
鳥根	1	松江市西川津町 金崎古墳	五連甕	11.5	5C末		京 都 大 学	1.2.12.14. 35.43
	2	〃 竹矢町 一古墳	台付子持壺	(現)65.0	7C前半	Ⅲa(山陰Ⅲ)		54.66
	3	〃 西谷町 牛切古墳	台付子持壺		6C後半	Ⅲa(〃Ⅲ)	東 博	34.66
	4	〃 大庭町 岡田山古墳	子持壺		7C前半	Ⅲa(〃Ⅳ)	八雲立つ風土記の丘	85
	5	安来市 大塚横穴	(台付)子持壺	(現)63.0	7C前半	Ⅲa(〃Ⅲ)		1.54
	6	浜田市 めんぐろ古墳	台付子持装飾壺	41.9	6C中葉	Ⅲc(〃Ⅰ)	個 人	54.65
	7	八東郡鹿島町 向山古墳	台付子持壺	58.5	6C中～6C後半	Ⅲa(〃Ⅱ)		54.66
	8	八東郡八雲村 増福寺20号墳	子持甕		5C末	Ⅳa		66
	9	〃 斐川町 小丸子古墳	(台付)子持壺		7C前半	Ⅲa(〃Ⅲ)		66
	10	益田市下吉田 南長廻横穴	子持長頸瓶		7C中葉	Ⅳa	益 田 市 教 委	65.67
	11	〃 三宅町 片山横穴群	子持壺		7C前半	Ⅲa(山陰Ⅳ)	八雲立つ風土記の丘	67
岡山	1	岡山市下足守 一古墳	子持器台	28.0	6C後半	Aa	東 博	1.2.4.34
	2	〃 北浦 八幡大塚古墳	台付子持壺	32.3	6C末	Ⅲa	文 化 庁	1.86
	3	〃 下林 法蓮	台付子持装飾壺	32.7	6C末～7C初	Ic	倉 敷 考 古 館	1.56
	4	〃 〃 一古墳	台付子持壺	(現)39.5	6C後半	Ia?	吉 備 考 古 館	1
	5	〃 上林 こうもり塚古墳	子持壺片	(〃)6.5	6C後半		岡 山 県 教 委	68
	6	備前市西片上 御塚古墳	台付子持装飾壺	54.0	6C後半	Ic	東 博	4.13.14.34
	7	赤磐郡熊山町可真一古墳	〃	(現)29.9	〃	Ic	〃	2.4.14.34
	8	〃 〃	〃	(〃)29.6	〃	Ic	〃	4.34
	9	赤磐郡赤坂町城山	〃	(〃)27.8	〃	〃	〃	4.34
	10	邑久郡長船町西須恵	台付装飾壺				〃	34
	11	〃 大塚古墳	台付子持装飾壺	47.4	6C中葉	Ic	個 人	2
	12	〃 磯上,小笠山	〃	52.8	〃	Ic	東 博	1.2.4.12. 14.34
	13	〃 〃 〃 〃	台付装飾壺 (有蓋形)	31.7	〃	Ⅲb	〃	1.4.12.34
	14	〃 長船町(伝)	台付子持装飾壺	49.5	〃	Ic	岡 山 県 博	1
	15	〃 牛窓町樋ヶ谷鹿忍	台付子持装飾壺	58.0	6C中葉～後半	Ic	東 博	1.2.14.34. 54
	16	〃 〃	台付子持装飾壺		〃	Ⅲb	〃	13.34
	17	都窪郡山手村宿辻畑	台付子持装飾有蓋壺	53.0	6C前半～中葉	Ⅲc	〃	1.2.4.12. 14.34
	18	吉備郡真備町妹字内山	子持長頸瓶	(現)17.5	7C中葉	Ⅳa	個 人	69
	19	苫田郡鏡野町高山字石井谷	子持器台	23.0			東 博	4.34
	20	英田郡美作町 北山1号墳	台付子持装飾壺	(推)35.2	6C後葉	Ic	岡 山 県 教 委	54.70
	21	小田郡矢掛町	子持器台				東 大 人 類 学	7
	22	(伝) 県 内	〃	27.0	6C末	A'a	岡 山 県 博	1
広島	1	双三郡吉舎町敷地	台付子持壺	17.9	7C前半	Ia		54
	2	〃 〃	台付装飾壺	30.0	6C末～7C初	Ⅲb	広 島 大 学	1
	3	豊田郡本郷町 御年代古墳	子持平瓶	18.3	〃		東 博	1.4.17.34. 43
	4	〃 〃 〃	台付装飾壺	35.1	〃		〃	4.34
	5	〃 〃 〃	子持器台片		〃		〃	4.34
	6	山県郡千代田町 石塚2号墳	鳥付子持壺形須恵器	53.8	7C中葉	Ⅳc	広 島 県 立 歴 民 館	1.2.12.43. 71
	7	(伝) 県 内	台付子持長頸壺	18.5	7C前半	Ia	個 人	56
香川	1	綾歌郡飯山町東坂元	?				7	
徳島	1	徳島市国府町 花山古墳	台付子持壺	33.4	6C後半	Ⅲa	国 府 中 学	72
愛媛	1	松山市 桜谷古墳	装飾人物片 3	2～5.0	6C中葉		松 山 市 教 委	73

県名	出土地名	装飾付須恵器々種	高さ	時期	型式	所蔵者	掲載文献
愛媛	2 松山市 天山1号墳	子持壺	37.0 ^{cm}	6C中葉	(Ⅲ a)	松山市教委	73
	3 " 溝辺町 溝辺1号墳	台付子持装飾壺	39.5	6C前半~中葉	Ⅲ c	"	1.72.74
	4 " 松ヶ谷古墳	子持器台	41.5	6C後半	A a	"	1.72
	5 " 東山 鷲ヶ森6号墳	"	33.8	7C前半	A a	"	1.72
	6 " 津末町御所ヶ谷	台付装飾壺	22.7			東博	4.7.34
	7 北条市善応寺	台付子持装飾壺					74
	8 伊予郡砥部町大下田山2号墳	器台付子持壺	42.3	6C後半	I a	愛媛県立歴史館	1
	9 " " "	台付子持壺	22.5	6C末	Ⅱ a	"	1
	10 " 大下田山古墳	子持器台	27.0	6C後半	A a	文化庁	1.86
	11 " " "	台付子持壺片	26.0	"		"	86
	12 伊予市大字上野	子持壺片				東博	4.34
	13 伊予三島市中曾根	台付装飾壺片				"	"
	14 東予市大字上市	台付子持壺				"	"
	15 川之江市金生町向山	台付装飾壺片				"	4.7
	高知	1 南国市岡豊町 舟岩2号墳	子持器台	34.0	7C前半	A' a	高知県教委
2 " " "		子持壺片		"	Ⅲ a?	"	75
3 " 舟岩8号墳		子持器台片		"		"	"
4 南国市明見 彦山3号墳		台付子持壺		6C後半	Ⅲ a	"	76
5 高知市秦泉寺 愛宕山古墳		"				"	"
6 安芸郡安田町東島大木戸古墳		"				"	"
福岡	1 福岡市 高見2号墳	台付子持壺		6C末	I a	福岡県教委	77
	2 " 南区 柏原古墳	子持器台	24.5	6C中葉	A a	九州大学	56.78
	3 " 西区 羽根戸古墳	子持器	20.2	5C後半		神宮徴古館	1.2.13.14
	4 " " "	装飾付筒形器台	57.0	"	B b	"	"
	5 春日市下白水 日拝塚古墳	台付子持壺	49.5	6C初	I a	東博	4.34.79
	6 " " "	"		"		"	4.34
	7 " " "	装飾付器台		"		"	" "
	8 糸島郡前原町東	子持器台	27.2	6C中葉	A a	神宮徴古館	1.2.14
	9 八女市 岩戸山古墳	子持壺片		6C前半		八女市教委	80
	10 福岡市東光寺 穴観音古墳	子持器台					7
佐賀	1 鳥栖市柚比町 永田2号墳	台付子持壺		6C中~後半	Ⅲ a	鳥栖市教委	81
	2 神埼郡東脊振村 松葉2号墳	子持器台	49.2	6C後半~末	A a	佐賀県教委	82
	3 " 有明町 龍王崎3号墳	隠形子持蓋	12.3	5C末~6C初		"	83
熊本	1 下益城郡城郷町塚原・丸山19号墳	台付装飾壺	44.0	6C前半	I b	熊本県教委	84
宮崎	1 児湯郡新富町 新田原43号墳	子持器台片	8.6	6C末	A a		59
	2 " " 44号墳	子持壺片	3.0	"			"
不明	1 不詳	台付子持蓋壺	39.4	6C中葉	Ⅲ a	樞原考古学研	2.12
	2 " "	台付子持壺 (有蓋形・脚欠)	(現)23.4	"	Ⅲ a	"	2.12
	3 " "	台付子持壺(有蓋形)	29.0	"	Ⅲ a	名古屋市博	2
	4 " "	台付子持装飾壺	42.5	"	Ⅲ c	愛知県陶磁資料館	12
	5 " "	台付子持蓋壺	30.2	6C中~後半	Ⅲ a	天理参考館	63
	6 " "	台付子持壺	32.0	6C末	I a	"	"
	7 " "	"	16.5	7C前半	Ⅲ a	"	"
	8 " "	子持器台	21.1	6C後半	A a	"	2
	9 " "	台付子持装飾壺	44.8	6C中葉	I c	個人	53

掲載文献

1. 田辺昭三『須恵器大成』 角川書店 1981
2. 榑崎彰一『土師器・須恵器』『日本の陶磁 古代中世篇1』 中央公論社 1976
3. 『原之城遺跡・下吉祥寺遺跡』 伊勢崎市教育委員会 1982
4. 『東京国立博物館収蔵品目録(考古・土俗・法隆寺献納宝物)』 東京国立博物館 1956
5. 後藤守一ほか『能登高木森古墳』 七尾市文化財保護委員会 1960
6. 吉岡康暢ほか『珠洲市の古墳文化』『石川県珠洲市史』第1巻 珠洲市 1976
7. 斎藤忠編『日本古墳文化資料綜覧(装飾土器)』 臨川書店刊 1982
8. 斎藤 優『神奈備山古墳』『日本考古学年報』8 1959
9. 斎藤 優ほか『天神山古墳群』 鯖江市教育委員会 1978
10. 上田三平『越前及若狭地方の史蹟』 三秀舎 1933
11. 向坂鋼二ほか『浜松市蛭子森古墳調査報告書』 浜松市教育委員会 1964
12. 特別展『須恵器展』図録 愛知県陶磁資料館 1982
13. 榑崎彰一「形象および装飾付須恵器について」『日本原始美術6』 講談社 1966
14. 田辺昭三『弥生土器・須恵器』『日本原始美術大系2』 講談社 1978
15. 特別展『東海古墳時代』図録 名古屋市博物館 1980
16. 久永春男ほか『蒲郡市天桂院山第三号墳』 蒲郡市教育委員会 1971
17. 後藤守一『日本考古学』 四海書房 1927
18. 久永春男ほか『豊田大塚古墳発掘調査報告書』 豊田市教育委員会 1966
19. 池上 年ほか『愛知県岡崎市岩津古墳群』 岡崎市教育委員会 1964
20. 早川正一ほか『城山1号古墳発掘調査報告書』 城山1号古墳発掘調査会 1983
21. 大場磐雄「断夫山古墳の造出に就いて」 考古学雑誌20-1 1930
22. 三渡俊一郎「名古屋市熱田区白鳥・断夫山古墳の前後関係について」『古代学研究』99 1983
23. 伊藤敬行ほか『守山の古墳』 守山市教育委員会 1963
24. 部門展『守山の遺跡と遺物』図録 名古屋市博物館 1984
25. 久永春男ほか『池下古墳』『守山の古墳』調査報告第二 名古屋市教育委員会 1969
26. 七原恵史「南東山古墳」『春日井市遺跡発掘調査報告第4集』 春日井市教育委員会 1970
27. 高木志朗ほか『上野古墳群』『犬山市埋蔵文化財調査報告』 犬山市教育委員会 1968
28. 八賀 晋『須恵器』『日本の美術170』 至文堂 1980
29. 榑崎彰一『古墳時代』『岐阜市史』(史料編考古・文化財) 岐阜市 1979
30. 『東天神古墳群』 南濃町文化財発掘調査報告Ⅱ 南濃町教育委員会 1981
31. 『図録 三重の考古遺物』 三重の考古遺物編集委員会編 1981
32. 『三重考古図録』 三重県 1954
33. 下村登良男『神前山1号墳発掘調査報告書』 明和町文化財調査報告2 明和町教育委員会 1978
34. 本村豪章「古墳時代の基礎研究稿一資料篇(1)一」『東京国立博物館紀要』第16号 東京国立博物館 1981
35. 『京都大学文学部博物館考古学資料目録』第2部 京大文学部 1968
36. 『丹後郷土資料館収蔵資料目録 第1集』 京都府立丹後郷土資料館 1980
37. 杉原和雄「丹後地方の横穴式石室採用以前の須恵器資料」『水と土の考古学』 1973
38. ウィリアム・ゴラント 'The Dolmens and Burial Mounds in Japan' 1897
39. 奥村清一郎ほか『湯舟坂2号墳』 久美浜町教育委員会 1983
40. 梅原末治「牧の石室古墳」『京都府史蹟名勝天然記念物調査報告』第20 京都府 1940
41. 安藤信策「大覚寺2・3号墳」『埋蔵文化財発掘調査概報』 京都府教育委員会 1976
42. 堤圭三郎『冑山2号墳発掘調査報告書』 城陽町教育委員会 1967
43. 原口正三『須恵器』『日本の原始美術4』 講談社 1979
44. 堤圭三郎「坊主山古墳発掘調査概報」『埋蔵文化財発掘調査概報』 京都府教育委員会 1965

45. 伊達宗泰ほか『鳥土塚古墳』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告 27 奈良県教育委員会 1972
46. 伊達宗泰ほか『勢野茶白山古墳』 " " 23 " 1966
47. 上田宏範ほか『大和二塚古墳』 " " 21 " 1962
48. 伊達宗泰『桜井市浅古所在の古墳』『奈良県古墳発掘調査集報Ⅱ』奈良県文化財調査報告書30 " 1978
49. 森浩一ほか『井辺八幡山古墳』同志社大学文学部考古学調査報告 5 1972
50. 『岩橋千塚とその周辺』図録 紀伊風土記の丘 1978
51. 小賀直樹『井辺前山 6号墳発掘調査概報』和歌山市教育委員会 1967
52. 森浩一ほか『岩橋千塚』関西大学文学部考古学研究紀要 2 1967
53. 田中作太郎『上代の壺』『陶磁全集 2』平凡社 1966
54. 岸本雅敏『装飾付須恵器と首長墓』『考古学研究』85 1975
55. 藤井直正ほか『原始・古代の枚岡』第1部各説 1966
56. 樋崎彰一編『世界陶磁全集 2』日本古代 小学館 1979
57. 森浩一ほか『土器』『日本の考古学Ⅴ古墳時代下』河出書房 1966
58. 大阪府立泉大津高校地歴部『和泉信太千塚の記録』1963
59. 梅原末治『新田原古墳調査報告』『宮崎県史蹟名勝記念物調査報告』11 宮崎県 1941
60. 田代克己『平古墳発掘調査概要』『節・香・仙』15号 大阪府教育委員会 1972
61. 京都国立博物館編『富雄丸山古墳・西宮山古墳出土遺物』臨川書店 1983
62. 河野通哉ほか『兵庫県竜野市誉田町舍利殿山出土の装飾土器』『古代学研究』29 1961
63. 樋口隆康『須恵器』『世界陶磁全集』1(日本古代篇) 河出書房 1958
64. 『鳥取県装飾古墳分布調査概報』鳥取県教育委員会 1981
65. 『日本やきもの集成 8 山陰』平凡社 1981
66. 『八雲立つ風土記の丘 No.57』(特別展特集号) 島根県立八雲立つ風土記の丘 1982
67. '78 特別展『古代の石見』展示図録 八雲立つ風土記の丘資料館 1978
68. 葛原克人『備中こうもり塚古墳』『岡山県埋蔵文化財調査報告』35 岡山県教育委員会 1979
69. 『岡山県埋蔵文化財調査報告』42 岡山県教育委員会 1982. 8
70. 『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』4 岡山県教育委員会 1973
71. 河瀬正利『鳥付装飾須恵器について』『考古学雑誌』59-4 1974
72. 『日本やきもの集成 10 四国』平凡社 1982
73. 『天山・桜谷遺跡発掘報告書』松山市教育委員会 1973
74. 『溝辺遺跡埋蔵文化財調査報告書』愛媛県教育委員会 1979
75. 『高知県舟岩古墳群』高知県文化財調査報告書 第15集 高知県教育委員会 1968
76. 岡本健児『高知県の考古学』郷土考古学叢書 2 吉川弘文館 1966
77. 『和白遺跡群』福岡市埋蔵文化財調査報告書 18 福岡市教育委員会 1971
78. 『日本のやきもの集成 12 九州Ⅱ』平凡社 1982
79. 田辺昭三『須恵器』『古代史発掘』6 講談社 1975
80. 『岩戸山古墳』八女市教育委員会 1972
81. 『佐賀県の遺跡』佐賀県文化財調査報告書 13 佐賀県教育委員会 1964
82. 『二塚山』佐賀県文化財調査報告書 46 佐賀県教育委員会 1979
83. 『龍王崎古墳群』佐賀県文化財調査報告書 17 佐賀県教育委員会 1968
84. 『塚原』熊本県文化財調査報告 16 熊本県教育委員会 1975
85. '82 特別展『島根の古代』展示図録 八雲立つ風土記の丘資料館 1982
86. 『新発見の考古品』—文化庁保管の埋蔵文化財(昭和40~50年度)—展示図録 東京国立博物館 1977